

介護のプロへの応援誌

# ふれあいいケア

3

Mar. 2012



特集  
**再考 医療との連携**

ふれあい訪問  
特別養護老人ホーム レジデンシャル常盤台

全国社会福祉協議会



地域交流の拠点となっていることが評価され、昨年秋、市民ボランティア団体「黄色いピアノを送る会」から、ピアノが寄贈されました。この団体は「音楽を通して病院や介護施設が元気になるほしい」と、幸せを呼ぶといわれる黄色に塗られたピアノを施設に寄贈する活動をしています



世界を舞台に活躍中のピアニスト、有川光湖さん(写真右)がボランティアで出演し、クラシックの名曲を演奏。利用者のコーラスクラブを指導している塚田恭子さん(写真左)も「アヴェマリア」など5曲を独唱。利用者の皆さんは一流の音色にうっとり酔いしれました



「黄色いピアノを送る会」理事長の阿部淑子さんもコンサートに参加され、美声を披露

# 「カフェ・マルシェ」は 地域交流の拠点

本日は1番街(1階)の多目的ホール「カフェ・マルシェ」でクラシックコンサートを開催。演奏前から観客席は笑顔がこぼれ、会場は盛り上がりを見せています。飲み物の注文を聞く職員に「きょうは一流のピアニストがお越しになるのね」と話しかけ、期待感を膨らませていました



2番街(2階)の中庭には舞台が設置され、屋外ステージとして使用。壁面には色鮮やかな抽象画が描かれています

KANAGAWA

## ふれあい訪問

横浜市保土ヶ谷区  
特別養護老人ホーム  
レジデンシャル常盤台



4番街(4階)の一角にある「ビューティサロン常盤台」で、利用者の髪をカットする美容師の富樫亜矢子さん。介護主任の奥様で、いつも連れてくる二人の子どもたちは人気者。普段は無口な方も子どもたちの前では相好を崩し、話しかけるのだとか



非常勤の介護職として、清掃を専門に担当する「クリーン エイド」のチーム。リーダーの間宮一夫さん(後列左)は、百貨店を早期退職してヘルパー2級を取得。「毎回、感謝の言葉をかけてもらえる。やりがいのある仕事が見つかってよかったです」



東日本大震災で被災された福島のご夫婦が、夫婦部屋に入居しています。「広くて使いやすい部屋です。横浜市在住の息子が会いに来てくれるので寂しくありません」

**川端有紀さん**  
●相談支援係長

開設前の準備段階からスタッフとして参加したので、無機質な建物に魂が吹き込まれていくプロセスを体験できました。貴重な経験です。施設説明会を繰り返し行うなど、早くから地域の理解を得るように努めたので、ご家族、地域の方、職員が一体となり、それぞれの思いが反映された施設になりました。

**メアス・ベンさん**  
●介護職員

カンボジアから日本に来て9年め。さまざまな仕事を体験しましたが、やっと一生の仕事に巡り合えました。ヘルパー2級の資格を取得し、この施設に就職してから毎日が充実しています。日本語には自信がありますが、利用者さんとの会話は難しいですね。将来は母国に高齢者施設を開設したいです。

かになるそうです。

この施設では開所に際して若い力に期待し、新卒の職員を36人も採用しました。まだ経験が浅いにもかかわらず、どのユニットもゆったりと穏やかな動きが流れ、利用者がそれぞれのペースで過ごしていました。これは日常的な職員研修に加え、「エイド」と呼ばれる非常勤職員が若い職員をサポートするシステムの成果でもあります。

エイドは、配膳、清掃、洗濯、リネン交換など、介護業務の周辺業務を担う役割で、ほとんどが地域の中高年の皆さんです。それぞれの経験や得意分野を活かした働き方をしており、たとえば「キッチンエイド」は、ベテランの主婦がチームを組み、食事の前後の短時間だけユニットに入り、盛りつけや食器の洗浄などを担当しています。地域の雇用創出につながり、施設の認知度が地域で高まるだけでなく、若い職員がエイドから食事や洗濯などに関する知識、技術を学ぶことが期待されています。

開所して1年足らず。職員が互いに支え合い連携しながら「チーム常盤台」として動くことで、利用者満足度の高いユニットケアが実践されていました。



最高齢(99歳)の利用者がコンサート終了後に花束を贈呈。しっかりした足取りでステージに向かい、笑顔で感謝の言葉を述べていました

**Cafe Marche**

利用者・家族だけでなく、地域の自治会、演奏家の友人など多彩な顔ぶれが集まり、満席の大盛況。地域に開かれている施設の証です



「カフェ・マルシェのコーヒーは本物だからおいしい」と利用者の皆さん。今日のスイーツは施設の農園で収穫したサツマイモの茶巾絞り。こちらも大好評でした

昨年4月、横浜市保土ヶ谷区に「レジデンシャル常盤台」という高級マンションのような名前の特別養護老人ホームが誕生しました。ショートステイ(定員10名)を含めた120人が利用していますが、その名に違わぬ、豊かさ、にこだわった周辺環境、室内空間の整備に努めています。

たとえば裏山の緑を活かした散策路や、地元の地主さんから貸与された470坪の広大な農園で作られる無農薬野菜は、四季折々に異なる楽しみを与えてくれます。一番街(ここでは1階から4階までの各階を○番街と呼んでいます)の「カフェ・マルシェ」は、通りに面した壁がガラス張り、で、天気の良い日にはオープンカフェに変身し、地元の方からも「おしゃれな喫茶店」として愛されています。また月の第1・3木曜日は「居酒屋マルシェ」にもなります。単に高級感を追求するのではなく、心を豊かにする環境面の工夫が至る所に凝らされています。

また一流の演奏家を招いてのコンサートなど、心を豊かにするイベントも数多く開催しています。重度の認知症高齢者の方も本物の芸術に触れると感動のあまり涙を流したり、表情も豊かになります。



施設の近所の470坪の広い専用農園。ダイコン、ネギ、ブロッコリーなどさまざまな野菜を育てて、喫茶や居酒屋の食材として使用しています。「畑仕事は初めて……」と言うものの立派なダイコンを手に入れているエイドの石田さん



食べきれないほど収穫できたときは、地域住民におすそわけ。野菜の目方を当てた方にプレゼントするというクイズを実施中でした



エントランスロビーに飾ってあるうさぎの人形。本誌の「ふるさと写真館」でもおなじみ、高橋まゆみさんから開設のお祝いに寄贈されたもの



毎日のように面会に訪れ、居室で琴を奏でるご家族。心落ち着く調べです。同じユニットの利用者の方がたも聞き惚れていました



4番街(4階)に設けた図書室。革張りの上質なソファが並んでいます。佐原幹夫理事長のお名前から「佐原文庫」と名づけられました

●利用者さんからひとこと

渡辺 雪江さん

終のすみかが見つかって  
家族との関係が深まった

1枚1枚に物語がある家族写真。旅行先の写真が多数あり、仲のいいご家族であることが伺えます



「面会に来た孫が『いい部屋だね。ここで暮らしたいな』と言ったのよ」と、うれしそうに話す渡辺さん。大正6年生まれ94歳。



入

居が決まってこの部屋に案内されたとき「なんて素敵な部屋だろう。木のぬくもりと、明るい日差しが心を和ませる」と感じたという渡辺さん。「窓からのお庭の眺めもすばらしいの。秋は一面、コスモスが咲いていたのよ」と声をはずませ、春に咲く菜の花を楽しみにしているそうです。

実母と姑を、看取りまで介護した経験があるそうですが、「ふたりを最後まで支え続けたことは自分にとっては良い経験だったけれど、3人の息子や嫁には同じ苦労をさせたくない」と考えて、以前から施設に入ることを望んでいました。

実は、この施設に入居する前、精神的に不安定になり、ご家族との関係が崩れそうになったこともありました。しかし入居して環境面のすばらしさと職員のアたたかいケアに触れ、すぐに落ち着いた日々を取り戻されたといいます。

近くに住んでいる息子さんが私物をたくさん持ってきて、居



しばしば会いに来るといふ長男ご夫婦。「家族で来たとき、1番街(1階)のカフェで大好きな紅茶を飲みながら過ごすのが楽しみ」

室を渡辺さんらしく設えました。とくに壁一面に貼った多数の家族写真が目をはきまします。「これは孫と曾孫の写真。こちらのセピア色の写真は夫の若いころ」と1枚1枚、ていねいに説明してくれました。

居心地のよい終のすみかが見つかったことで、かえってご家族とのつながりが強くなったと感じている渡辺さん。面会に来た息子さん夫婦との会話ははずんでいました。

職員の個性を引き出す「君こそスターだ」



私が立ち上げた高年齢者施設は、ここで3カ所

めになります。これまでご利用者、ご家族、職員の皆さんから学ばせていただいたことを、この施設を通してフィードバックしていくつもりです。

今後の課題は、すべての介護職員が客観的、多面的なアセスメント能力を身につけてそれをケアプランにつなげ、プランどおりのケアが提供できるようにすること。そのための研修を毎日のように実施していますが、参加意欲の向上のためにポイント制を採用し、賞品の「粗品」を用意しています。

また職員の得意なこと、やりたいことに注目し、活躍の場を与える「君こそスターだ」という取り組みもすすめています。WEBデザイン、英会話などさまざまな特技をもつ職員がいるので、個性をうまく引き出したいですね。(高橋好美施設長)

社会福祉法人 育明会  
特別養護老人ホーム レジデンシャル常磐台

横浜駅西口から車で10分、畑が点在する自然豊かな環境に平成23年4月に開所しました。4階建てで全室個室、1ユニット10名で構成され、特養定員110名、ショートステイ定員10名。アイランドキッチンを設置したりリビングや居室は木目を基調とした家庭的な雰囲気。医療依存度の高い方の受け入れにも積極的に現在、経営栄養の利用者が9人入居されています。

〒240-0067 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常磐台 74-7  
TEL.045-348-8001



施設の裏には里山の四季を感じられる散策路「こもれびの径」を独自予算でつくりました。車いすのまま施設の屋上から橋を渡り、ここに来ることも可能